

社会人ラグビー選手の心理的競技能力について — 競技成績・ポジションによる比較 —

A Research of trait Psychological-Competitive Ability for Senior Rugby Players Its effect on the performance and comparison of the two positions

岡本昌也[†], 高津浩彰^{††}, 高田正義^{†††}, 寺田泰人^{††††}
Masaya OKAMOTO, Hiroaki TAKATSU, Masayoshi TAKADA, Yasuto TERADA

Abstract The purpose of this investigation is to research on trait psychological-competitive ability for senior rugby players in Japan. The subjects are 142 male senior rugby players to participate in the National Athletic Meeting. The results are as follows:
BK players are superior to FW players in self-confidence and the ability to make the game plans, especially, to predict the game-performance. The players of more important position (HO, NO.8, SH, SO, FB) are superior to the other players (PR, LO, FL, CTB, WTB) in self-confidence, the ability to make the game plans and co-operation, especially, the ability of decision, to predict the game-performance, judgment and co-operation. The semifinalists are higher score in the will to have a game than the players belong to the seventh, eighth, ninth and tenth teams.

1.はじめに

ラグビーのゲームにおいて、筋力、持久力、体格などの身体的能力が優れていることは有利にゲームを進めていくのに必要なことである。しかし、身体的能力が優れていれば素晴らしいゲームパフォーマンスを残せるという考えは、現代のスポーツ実践では通用しない。優秀なスキルとテクニックを備えている選手であっても、精神力がゲームパフォーマンスに影響を及ぼし、阻害することも時には見られる。

良いパフォーマンスを残すために、精神力が必要であることは、多くの指導者が指摘していることではあるが、具体的にはどのような能力があり、必要なのかということは解明されていなかった。

徳永らは、精神力（以下心理的競技能力）の内容を検討し心理的競技能力診断検査を作成した。この検査を用いて、いくつかの調査がおこなわれ、パフォーマンスを予測するための指標として有効であることが示唆されている。⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾

ラグビーにおいて、身体的能力については、様々な調査検討がおこなわれてきたが、「タックルは精神力だ」などと言われながらも、具体的な心理的競技能力の調査検討はまだおこなわれていない。また、ラグビーにはたくさんのポジションがあり、それぞれの役割がある。フォワードは、激しいコンタクト

† 愛知工業大学基礎教育系健康科学教室（豊田市）
†† 豊田工業高等専門学校 一般学科（豊田市）
††† 愛知学院大学 教養部（日進市）
†††† 市邨学園短期大学 商経科（犬山市）

を頻繁におこない闘争心をむき出しにプレーをおこなう。これに対して、ボックスは、ランニングやパス・キックを使い相手と距離をおいてプレーをおこなう。では、心理的競技能力は、チームにおける役割(ポジション)によって異なってくるのか。つまり、フォワードとボックスの違いによって異なるのか。ゲームを行うとき、ゲームメイクにより重要な役割を果たすと考えられるフッカー、No.8、スクラムハーフ、スタンドオフ、フルバックとその他のポジションで心理的競技能力に違いがあるのか。体力的な能力同様、心理的競技能力の差が競技成績に影響するのか。ラグビー選手の心理的競技能力の調査は、今後の指導のために有効である。

本研究では、社会人ラグビー選手を対象に以下のことを調査する。

ポジションによる比較という観点から、フォワード選手とボックス選手の心理的競技能力の比較検討をおこなう。

ゲームでより重要な役割を果たすフッカー、No.8、スクラムハーフ、スタンドオフ、フルバック「以下縦のポジション」の選手とプロップ、ロック、フランカー、センター、ウイング「以下他のポジション」の選手による心理的競技能力の差異を比較検討する。競技成績への心理的競技能力の影響を検討する。

2. 調査方法

第49回国民体育大会(若鯨国体)ラグビー競技成年1部に参加した選手142名(M=25.6才, SD=3.13)を対象に、心理的競技能力診断検査(DIPCA.2, トーヨーフィジカル発行)を実施した。また、所属チーム、都道府県、競技経験、ポジションなどを詳細に知るために作成した、コンディショニング調査も同時に実施した。各調査用紙は、各チームに郵送し実施してもらい、試合が始まる前に回収した。

3. 分析方法

フォワード選手とボックス選手、縦のポジション選手と他のポジション選手の心理的競技能力を比較するため、各群の心理的競技能力得点をもとに因子・尺度ごとにt検定をおこなった。また、競技成績による心理的競技能力を比較するため、上位4チーム「以下上位群」と下位4チーム「以下下位群」に

表1 FW群とBK群の心理的競技能力得点

	群 尺度・因子	FW(N=73)		BK(N=69)		t 検
		M	SD	M	SD	
1	忍耐力	15.00	3.05	15.06	3.19	**
2	闘争心	16.67	3.60	17.68	3.34	
3	自己実現意欲	16.70	2.74	17.01	2.68	
4	勝利意欲	15.41	3.41	16.38	2.59	*
5	自己コントロール	16.47	2.86	15.89	2.99	
6	リラックス	15.60	3.48	15.03	3.77	
7	集中力	16.89	2.69	16.64	2.71	
8	自信	13.37	3.10	14.29	3.11	*
9	決断力	13.49	3.28	14.41	2.81	*
10	予測力	12.34	3.45	13.49	2.83	**
11	判断力	12.85	3.41	13.67	3.04	
12	協調性	16.22	3.24	16.58	2.85	
1~4 競技意欲因子		63.78	9.47	66.13	9.08	
5~7 精神安定集中因子		48.96	7.98	47.54	8.42	
8・9 自信因子		26.86	6.04	28.70	5.63	**
10・11 作戦能力因子		25.19	6.53	27.16	5.89	*
12 協調性因子		16.22	3.24	16.58	2.85	

*P<0.1, **p<0.05

表2 縦ポジション群と他のポジション群の心理的競技能力得点

	群 尺度・因子	縦ポジ(N=48)		他ポジ(N=94)		t 検
		M	SD	M	SD	
1	忍耐力	15.25	3.09	14.91	3.12	
2	闘争心	17.43	2.97	17.02	3.14	
3	自己実現意欲	17.00	2.40	16.78	2.86	
4	勝利意欲	15.85	3.22	15.89	3.00	
5	自己コントロール	16.13	2.86	16.20	2.98	
6	リラックス	15.35	3.62	15.31	3.64	
7	集中力	16.81	2.61	16.74	2.75	
8	自信	14.50	2.80	13.47	3.24	*
9	決断力	14.85	2.73	13.47	3.17	**
10	予測力	14.15	2.74	12.27	3.25	***
11	判断力	14.29	2.95	12.71	3.28	***
12	協調性	17.21	2.48	15.98	3.23	**
1~4 競技意欲因子		65.54	8.49	64.61	9.75	
5~7 精神安定集中因子		48.29	8.22	48.26	8.23	
8・9 自信因子		29.35	5.16	26.94	6.10	**
10・11 作戦能力因子		28.44	5.35	24.98	6.22	***
12 協調性因子		17.21	2.48	15.98	3.23	**

*P<0.1, **p<0.05, ***p<0.01

所属する選手の心理的競技能力得点をもとに因子・尺度ごとにt検定をおこなった。

4. 結果と考察

ポジションにおける心理的競技能力の差異を調べるため、フォワード選手とバックス選手の心理的競技能力をt検定を用いて比較した。分析の結果、自信因子においてバックス群の方がフォワード群よりも有意に高い値を示した(表1)。このことから、バックス選手は、フォワード選手と比較して、自信をもってプレーしていると考えられる。尺度においては、自信、決断力ともに有意な傾向しか見られなかったが、フィールドで孤立しがちなバックスでは、これらの能力を兼ね備えた選手が多いのではないかと考えられる。また、作戦能力因子において、バックス群の方がフォワード群よりも有意とはいえないが、高い傾向が見られた。特に、尺度においては、予測力に有意な差が見られた。これは、バックス選手の方がフォワード選手より予測力に優れていると考えられる。しかし、現在の日本のラグビーでは(特に個々のチームにおいて)、判断力や予測力などの作戦能力の優れている選手は、バック스에配置される傾向が多々あることから、このような結果になったと考えられる。必ずしもバック스에配置された後に作戦能力が開発されたとは考えられない。

縦ポジション群と他のポジション群の心理的競技能力の比較をt検定を用いておこなったところ、自信因子、作戦能力因子、協調性因子において、縦ポジション群の方が他のポジション群よりも高い値を示した(表2)。このことから、縦ポジション選手は、自信、作戦能力、協調性の能力が他のポジション選手よりも優れていると考えられる。これらの結果は、縦ポジションの選手は、ゲームメイクに重要なポジション(戦略を考えたり、戦略の中心を担うなど)であるため、特にチームプレー遂行に必要な決断力、予測力、判断力、協調性に優れている選手が配置されていると考えられる。縦ポジションの選手がゲームリーダーを務めることが多いのも、このような能力に優れているからとも考えられる。

競技成績について、上位群と下位群の心理的競技能力をt検定を用いて比較したところ、競技意欲因子において上位群の方が下位群よりも高い値を示した(表3)。このことから、競技成績を左右する心

理的競技能力として、競技意欲が影響すると考えられる。しかし、上位チームは、常に日本一を目指している東日本・西日本社会人リーグに所属する企業チームの選手で構成されており、下位チームは、楽しみを大切にクラブチーム所属選手で構成されているため、競技意欲に差がでたのではと考えられる。

表3 上位群と下位群の心理的競技能力得点

	群 尺度・因子	上位(N=66)		下位(N=39)		t 検
		M	SD	M	SD	
1	忍耐力	15.92	2.88	14.56	2.67	**
2	闘争心	17.83	3.23	16.67	2.71	*
3	自己表現意欲	17.67	2.32	16.26	2.58	***
4	勝利意欲	16.94	2.68	15.08	2.90	***
5	自己コントロール	15.89	2.74	16.97	2.93	*
6	リラックス	15.24	3.31	16.05	4.19	
7	集中力	16.91	2.37	17.15	2.78	
8	自信	14.17	3.23	13.49	2.95	
9	決断力	14.26	3.15	13.82	2.97	
10	予測力	13.36	3.06	12.64	3.28	
11	判断力	13.54	3.23	13.51	3.05	
12	協調性	16.82	3.20	16.59	3.01	
1~4	競技意欲因子	68.36	7.98	62.56	8.74	***
5~7	精神安定集中因子	48.05	7.18	50.18	9.21	
8・9	自信因子	28.42	6.12	27.31	5.57	
10・11	作戦能力因子	26.91	5.99	26.15	5.91	
12	協調性因子	16.82	3.22	16.59	3.01	

*P<0.1, **p<0.05, ***p<0.01

5. まとめ

本研究の結果から以下のことが明らかになった。
 ・フォワード選手とバックス選手といったポジションの差異においては、自信、作戦能力、特に予測力でバックス選手の方が優れていた。
 ・縦のポジション選手と他のポジション選手といったポジションの差異においては、自信、作戦能力、協調性、特に決断力、予測力、判断力、協調性が縦のポジション選手が優れていた。
 ・競技成績の差異においては、競技意欲で上位チームが優れていた。

<参考引用文献>

- (1) 徳永幹雄, 金崎良三, 磯貝浩久, 橋本公雄,
高柳茂美; スポーツ選手に対する心理的競技能力
診断検査の開発
デサントスポーツ科学,
12:178-190, 1991
- (2) 徳永幹雄, 橋本公雄;
心理的競技能力診断検査用紙(DIPCA.1)
トヨーフィジカル発行
- (3) 徳永幹雄, 橋本公雄;
九健式心理的競技能力診断検査手引き
トヨーフィジカル発行 1991
- (4) 徳永幹雄, 橋本公雄, 高柳茂美, 許健斐;
スポーツ選手の心理的競技能力の「特性」
および「状態」に関する研究
-準硬式野球大会参加選手について-
健康科学, 16:65-74

謝辞

本研究をおこなうにあたりまして, 中京大学金澤
睦先生をはじめ愛知県ラグビーフットボール協会の
皆様にご協力いただきましたことに厚く御礼を申し
上げます。

(受理 平成8年3月19日)